令和５年度

民生文教常任委員会行政視察報告書

期　間：令和５年１０月　９日（月）から
令和５年１０月１３日（金）まで

訪問先：山口県下関市、広島県広島市、
広島県東広島市、兵庫県養父市、
兵庫県丹波篠山市

◎民生文教常任委員会　行政視察復命名簿

●議　員

委 員 長　　鈴木　利行

副委員長　　田端かがり

委　　員　　相内　玲子

委　　員　　安藤　秀明

委　　員　　伊藤　正志

委　　員　　栃木　潤子

委　　員　　横澤　輝樹

委　　員　　吉田　孝史

●同行職員

教育部総務スポーツ課

主　　査　　扇谷　憲生

●議会事務局随行職員

書　　記　　若松　太郎

視　察　項　目

山口県下関市

① 新ショート・トワイライトステイ事業について

広島県広島市

② ごみ処理施設「中工場」について

広島県東広島市

③ ごみ処理施設「広島中央エコパーク」について

兵庫県養父市

④ 小規模校特認校について

兵庫県丹波篠山市

⑤ スポーツ振興官について

■１０月１０日（火）

山口県下関市

○市の概要

下関市は、本州と九州及び大陸との接点でもある地理的条件から、関門国道トンネルの開通や関門橋の完成、下関～韓国釜山間に関釜フェリー就航、山陽新幹線の開通や中国自動車道が全面開など、内外の交通の要衝として古くから栄え、加えて周辺市町村との合併などにより、商工業、港湾、農業、水産観光都市として山口県最大の都市となっている。

人口は 255,051 人（令和２年国勢調査より）、面積 716.10 平方キロメートル。

産業構造は、従業者数割合を見ると第１次産業が約４％、第２次産業が約 24%、第３次産業が約 72%となっている。

第１次産業は高度経済成長の中で離農が進み減少を続け、第２次産業は平成 12 年から減少に転じているものの、基幹産業である食料品、輸送用機械器具を中心とする製造業の製造品出荷額等においては概ね横ばいの傾向にあり、第３次産業が最も人口が多く就業者の割合は増加しているが、市内総生産は減少傾向にある。

	下関市	稚内市
人口（R2 国調）	255,051 人	33,563 人
世帯数	115,817 世帯	16,060 世帯
人口増減率（国調 H27→R2）	△5.0%	△7.7%
年少人口比率（14 歳以下）	11.1%	10.4%
老年人口比率（65 歳以上）	35.8%	33.0%
面積（㎢）	716.1	760.8
予算総額（R3）	186,657,744 千円	46,510,300 千円
財政力指数（R3）	0.54	0.39
一般職員数（R3）	2,052 名	277 名
議員定数（R3）	34 名	18 名

■１０月１０日（火）

広島県広島市

〇市の概要

広島市は、中国山地を背にして南に瀬戸内海に接しており、人口が 1,200,754 人（令和２年国勢調査より）、面積は 906.69 平方キロメートルの政令指定都市である。

「広島」という名前は、16 世紀に毛利輝元が、太田川デルタの上に築城及び城下町の建設を始めた際に命名したものと言われ、江戸時代には広島城下の南方の干潟は次々と干拓され、江戸・大坂・京都・名古屋・金沢に次ぐ大都市となった。

第２次世界大戦での原子爆弾で一瞬にして焦土と化したが、その復興は特別法である広島平和記念都市建設法により、世界平和の象徴と国家的事業として進められ、また、戦後は一貫して平和都市の建設に努力しており、こうした歴史を踏まえ、広島市基本構想では、「国際平和文化都市」を都市像として掲げている。

産業の特徴としては、豊かな自然や温暖な気候を生かした多様な農林水産物の生産や、自動車部品関連など輸送用機械器具の生産をはじめとした高い技術を有するものづくり産業の集積などが挙げられ、更に国の出先機関や企業の支社が集中している。

	広島市	稚内市
人口（R2 国調）	1,220,754 人	33,563 人
世帯数	555,123 世帯	16,060 世帯
人口増減率（国調 H27→R2）	0.6%	△7.7%
年少人口比率（14 歳以下）	13.3%	10.4%
老年人口比率（65 歳以上）	25.7%	33.0%
面積（㎢）	906.69	760.8
予算総額（R3）	1,268,107,666 千円	46,510,300 千円
財政力指数（R3）	0.81	0.39
一般職員数（R3）	7,844	277 名
議員定数（R3）	54 名	18 名

■１０月１１日（水）

広島県東広島市

〇市の概要

東広島市は、昭和 49 年４月に西条・八本松・志和・高屋の４町の合併により、広島県内で 12 番目に誕生した市であり、人口は 196,608 人（令和２年国勢調査より）、面積は 635.16 平方キロメートルである。

長い歴史と伝統、恵まれた自然環境を背景に「賀茂学園都市建設」および「広島中央テクノポリス建設」の２大プロジェクトを柱に、社会基盤や産業基盤の整備が進められてきた。

更に、平成 17 年２月、黒瀬・福富・豊栄・河内・安芸津の５町との合併を経て、内陸部の山々や瀬戸内海の多島美を望む海岸線まで市域が広がり、歴史・文化等の多くの地域資源が加わっている。

先述の官民の学術研究機関の集積や企業の立地のほか、農林水産業や酒造などの伝統産業、自動車関連産業や電子デバイス関連の先端産業などが基幹的な産業となり、市の成長を支えている。

	東広島市	稚内市
人口（R2 国調）	196,608 人	33,563 人
世帯数	90,158 世帯	16,060 世帯
人口増減率（国調 H27→R2）	1.9%	△7.7%
年少人口比率（14 歳以下）	14.0%	10.4%
老年人口比率（65 歳以上）	24.0%	33.0%
面積（㎢）	635.16	760.8
予算総額（R3）	120,666,701 千円	46,510,300 千円
財政力指数（R3）	0.85	0.39
一般職員数（R3）	1,369 名	277 名
議員定数（R3）	30 名	18 名

■１０月１２日（木）

兵庫県養父市

〇市の概要

養父市は、平成 16 年４月１日、兵庫県養父郡の八鹿町・養父町・大屋町および関宮町の４町が合併して成立した。

人口は 22,129 人（令和２年国勢調査より）、兵庫県北部の但馬地域の中央に位置し面積は 422.91 平方キロメートル、兵庫県の 5.0%、但馬地域の 19.8%を占める。

京阪神と山陰地方を結ぶ国道９号が東西に、姫路方面と山陰地方を結ぶ国道 312 号が南北に通っており、北近畿豊岡自動車道の八鹿氷ノ山 IC・養父 IC の供用開始で、京阪神地域から約 120 分で到着することができる。

かつての基幹産業は、水稲、養蚕を中心とした農業、豊かな山林資源を活用した林業であったが、高齢化や後継者不足等の原因により、現在は第１次産業が約２%で、第２次産業が約 20%、第３次産業が約 77%となっており、第２次・３次産業へと転換してきている。

	養父市	稚内市
人口（R2 国調）	22,129 人	33,563 人
世帯数	8,385 世帯	16,060 世帯
人口増減率（国調 H27→R2）	△8.9%	△7.7%
年少人口比率（14 歳以下）	11.1%	10.4%
老年人口比率（65 歳以上）	39.5%	33.0%
面積（㎢）	422.91	760.8
予算総額（R3）	31,678,300 千円	46,510,300 千円
財政力指数（R3）	0.24	0.39
一般職員数（R3）	260 名	277 名
議員定数（R3）	16 名	18 名

■１０月１２日（木）

兵庫県丹波篠山市

〇市の概要

丹波篠山市は兵庫県の中東部に位置しており、人口は39,611人（令和２年度国勢調査より）、総面積は377.59平方キロメートル。

東は京都府、西・北は丹波市・加東市、南は大阪府・三田市などに隣接し、舞鶴若狭自動車道の開通やJR福知山線の複線化によって、関西経済圏の大阪・神戸からの時間的距離が大幅に短縮され１時間圏域となっている。

市の基幹産業は農業で、主な特産物には、丹波篠山黒豆（黒枝豆）や丹波篠山山の芋、丹波栗、丹波松茸、丹波茶、丹波焼、丹波木綿などがある。

また、全国的に知られる「デカンショ節」のふるさとでもあり、８月には「デカンショ祭」が盛大に行われ、ほかにも、「陶器まつり」や「味覚まつり」などのさまざまなイベントが年間を通じて行われている。

	丹波篠山市	稚内市
人口（R2国調）	39,611人	33,563人
世帯数	15,605世帯	16,060世帯
人口増減率（国調H27→R2）	△4.5%	△7.7%
年少人口比率（14歳以下）	11.5%	10.4%
老年人口比率（65歳以上）	35.8%	33.0%
面積（㎢）	377.59	760.8
予算総額（R3）	41,493,960千円	46,510,300千円
財政力指数（R3）	0.42	0.39
一般職員数（R3）	407名	277名
議員定数（R3）	18名	18名

常任委員会行政視察報告書

委員長　　鈴木　利行

山口県下関市

「新ショート・トワイライトステイ事業」

この事業は、両親共働きでふたりとも夜勤がある方、母子家庭で週末だけ夜勤をしたいけど夜の預け先がないし働けない方、今後出産を控えていて、旦那は夜も仕事で本人が入院した時、泊りがけで子供を見てくれる人がいない方などのために新ショート・トワイライトステイ事業で専従保育士が24時間体制で夜、仕事をされているお父さん、お母さんのために預かることが出来ます。仕事の理由以外にも、夜お子さんを預けないといけない時、育児につかれてしまった時、泊りがけで預けることが出来ます。さらに育児に疲れ切ってしまって、リフレッシュしたい時などに預けることが出来るということです。対象年齢は乳児から12歳までとなっています。

本市において、このような事業のニーズがどれくらいあるのか把握してはどうかと思います。

広島県広島市

ごみ処理施設「中工場」現地視察

広島市「中工場」は前方に海を臨み、広報に市街地が広がる玄関口であり、豊かな自然と水辺の空間を提供した施設で、高性能のろ過式集じん機、ガス吸収塔、触媒脱硝装置などの排ガス処理設備により、排ガスの中のばいじんやダイオキシンをはじめとする有害物質を除去し、プラント排水の一部や雨水を処理して施設内で再利用、また災害発生時にも安全かつ円滑にごみ処理が継続できるよう、郊外防止を環境・災害対策への配慮がされています。

ごみを焼却するときに発生した大量の熱エネルギー源はサーマルリサイクルで積極的な取り組みを行っています。焼却炉の余熱は、工場内の冷暖房及び給湯に利用、蒸気タービン発電機による高効率発電の場内利用を行い、余剰電力は電力会社へ売電しており、余熱利用の推進をしております。

本市においても今後、ごみ焼却を考える上で参考にできるのではと思います。

広島県東広島市

ごみ処理施設「広島中央エコパーク」現地視察

「高効率ごみ発電施設」と「汚泥再生処理センター」の中核施設として「先進的な循環型社会の拠点」「地域住民や市民の交流の場」となる施設を実現するということで、資源循環、エネルギー利用に優れた施設の実現ということで、処理物すべての再資源化による最終処分量ゼロ、さらにごみの持つエネルギーを利用したバイオマス発電、さらに環境学習スペースの設置により、子どもたちに環境に対する理解を深めることが出来る施設であると思います。

本市においても今後、ごみ焼却を考える上で参考にできるのではと思います。

兵庫県養父市

「小規模・地域活性化事業」

特色ある取り組みとして、ALT が７人常駐し、授業だけでなく日常的に英語に触れる活動を実施しており、朝の放送も英語で行われている。

スピーチコンテストを年２回実施している。

インターネット利用によるオンライン英会話で１対１で外国人講師と対話する英語授業を５・６年生で行っている。

ALT が順番に各学校に慣れさせる取り組みを行っている。

小学校低学年から英語に慣れさせる取り組みを行っている。

本市においても ALT の人数を増やし英語に対する抵抗感がないように取り組むべきと思う。

表現力を育成するために、地元の兵庫県立ピッコロ遊劇団の演劇指導で毎年地域を題材とした演劇を上演して、年５回の開催で地域と共に学校づくりをしており、地域のボランティアが環境支援、学校支援を行っており、地域の協力がすばらしい。

兵庫県丹波篠山市

「スポーツ振興官について」

スポーツを通じた地域活性化を目指して、丹波篠山市スポーツ振興官の設置、特別職非常勤職員として採用、さらに市内高校の定員割れを防ぐための起爆剤が必要ということで野球及びソフトボールを通じた地域活性化の取り組み、生徒たちの生活の場である寮については、OB 会がボランティアで支援している。

本市においても市立高校で実施できるのではないかと思う。

常任委員会行政視察報告書

副委員長　　田端 かがり

山口県下関市

PROJECT NAME: 新ショートステイ・トワイライトステイ事業

TIMELINE: 令和5年10月10日午前10時～11時30分

概要

- 令和3年1月スタート。
- 24時間体制で児童を一時的に養育する。ショートステイは短期入所生活援助、トワイライトステイは夜間養護等事業。
- 元々ショートステイ・トワイライトステイ事業をやっていたが、より利用者さんが使いやすいように利用条件等を緩和したものが「新」ショートステイ・トワイライトステイ事業である。
- アンケート調査により既存制度の問題点を精査。利用する可能性として1番多かった理由は「病気や出産」だが、2番目に多かったのは「リフレッシュ」であった。このことも「新」ショートステイ・トワイライトステイ事業の後押しとなった。
- 子育てのストレス軽減や、女性の社会進出に貢献し、安心して子育てができる環境整備を図るもの

新旧対照表

旧	新
国の事業	市の事業
子ども子育て支援交付金を活用	デジタル田園都市国家構想交付金、ボートレース未来基金を活用
乳児から18歳まで	乳児から12歳まで
市役所で利用手続き	直接施設で手続き
利用には理由の証明書が必要	証明書不要
利用料は新制度に比べ割安	利用料は旧制度に比べ割高
新制度における生活保護世帯や市民税非課税世帯等の利用料は、旧制度の4倍～６倍程度	

所感等

- 多くの子育て世帯、特に身近に預けられる環境がない人や、父子・母子世帯の生活に助け舟となる施策であろうとの期待があったが、制度利用のしやすさよりも、利用料がネックとなり新制度の成果はそれほど上がっていない。むしろ、低いと言わざるを得ない。
- 上記とも重複するが、利用料が負担となる世帯ほど利用したいのが本音ではないのか。新制度の利用料は旧制度をベースとして考えられたものだが、事業のターゲットが合っていないように思われる。例えば、シングルの家庭で仕事の都合で子供を預けるとなった場合、費用対効果を考えると仕事を休んだ方が家計的にはマシ、という事例も発生するだろう。
- デジタル田園都市国家構想交付金が今年度までなので、来年度以降の事業継続は未定。
- 民間事業者(児童養護施設)への委託事業であり、昨今の人材不足等により受け入れ状況は厳しい。
- この事業の採算性は低いとのことだが、困っている人を助ける事業なので、やはり行政にしかできない事業であると思う。
- 病児保育、障がいのある子どもの受け入れは基本NG。障がいのある子どもは障害者支援課が窓口となるので、子育て政策課ではない(らしい)。
-

広島県広島市・東広島市

PROJECT NAME: ゴミ焼却施設の現地視察

TIMELINE: 令和5年10月10日午後2時30分～4時（広島市）
令和5年10月11日午前10時30分～12時（東広島市）

概要

- 本市において、サーマルリサイクルの機運が高まってきたこともあり、広島県の二つのゴミ処理施設を視察し、参考とする。
- 広島市においては市街地に建てられていること、東広島市においてはゴミによる発電がおこなわれていることに着目したい。
- 両市とも決算特別委員会の真っ只中であったため、施設管理運営をしている事業者に話を聞いた。

各施設の特徴

広島市中工場

- 「水の都ひろしま」構想とデザイン性
- 21世紀にふさわしい理想的な施設との調和
- 公害防止と環境・災害対策への配慮
- 高度な余熱利用の促進
- 旧中工場の老朽化により、隣接地を埋立て建設。市街地にあるが、元々あったのと端っこ(海沿い)ということもあり反対等はなし。
- 市街地にあるため、見せる・魅せる建築物である。葛西臨海公園や東京博物館の法隆寺宝物庫等を設計した谷口吉生作。
- 原爆ドーム・原爆死没者慰霊碑・広島平和記念資料館と一直線で、海に抜ける構造となっている。
- この工場では焼却のみを行い、1時間当たり30トンのゴミを処理できる。一般ゴミ、可燃ゴミ、プラゴミ、生ゴミを扱う。
- 1日約400台の収集車が来る。
- 焼却炉に投入されたゴミは850℃以上の高温で燃やされ、その熱で作られた蒸気で発電を行う。
- 発電機の最大出力は15200kWで、1/2を場内で使用、1/2を売電している。また、公共施設に託送している。

広島中央エコパーク

- 資源循環・エネルギー利用に優れた施設の実現
- 環境学習の拠点となる施設の実現
- 災害対応・防災亜拠点を担う施設の実現
- 自然と地域を融合した施設として整備
- 施設の管理運営は、東広島市・竹原市・大崎上島町により設立された特別地方公共団体である「広島中央環境衛生組合」による。
- 場所は2市1町のほぼ真ん中に位置。
- 高効率ごみ発電施設である広島中央エコパークでは、中工場のような焼却灰が出ず埋め立て処分量がゼロである。
- 高効率ごみ発電施設と隣接して汚泥再処理センターがあるが、水分はろ過され下水道へ、脱水された汚泥は発電施設で処理される。（発電の燃料となる。）
- 発電機の最大出力は6500kWだが、中工場と比較しかなりの「高」効率である。
- 環境省の補助金メニューにより、汚泥再処理センターは1/3、高効率ごみ発電施設の発電関係は1/2、その他の部分は1/3の補助で建設。
-

所感等

- 本市が今後、真剣にサーマルリサイクルを考えるにあたり、また、実行へと移行する段階だということをふまえると、両市の施設の見学は非常に有用であったように思う。特に、東広島市の広島中央エコパークは、ゴミの残渣をなくす、再資源化（スラグ・メタル）、汚泥処理されたものをゴミとして発電施設で使用する、CO_2の排出も従来型と比べ1/2である等々、環境に配慮した、また緑の中にあってもその緑と調和する、緑を決して汚さない、そんな凛とした施設であった。本市においても、ただゴミを焼けばいい、焼却灰の体積は1/25程度になるので埋め立てればいい、発電した分は施設で使えばいい、そんな短絡的な考えで進まないことを願う。

兵庫県養父市

PROJECT NAME: 小規模校　地域活性化事業

TIMELINE: 令和5年10月12日午前9時30分～11時

概要	• 6学年で122名いた建屋小学校も、過疎化や少子化により児童数が半減し、今後も減ることが予想された。 • 小規模校で学校選択制の一つである特認校制を実施することを小規模特認校制度といい、特定の学校を特認校として指定し、少人数での教育の良さを活かしたきめ細やかな指導や特色ある教育を行うもの。養父市は建屋小学校を小規模特認校として再生することを決めた。 • 地域の活性化と、建屋小学校存続のため、平成30年4月に動き始める。
建屋小学校の特色等	• 建屋小学校を残す（統廃合に関しては検討すらせず）ことが大命題であった。 ⬇ 地域との環境性がベースとしてあり、元々の子たちを「核」とすることでスムーズに進行するだろうと予想。 • 現在45名在籍しているが、17名が特認校制度での児童。 • 中学卒業後の進路として養父市内の高校を選択してもらうためにも中高連携を進めていこうという機運があり、学校選択制はその活動とともにあるもの。 • 小規模校ならではの悩みである複式学級が区域外入学者の増加で解消され、児童間交流が増加（協力・競争）。 • 卒業後はそれぞれの学区に戻ることになるが、養父中学を選択することも可能。 • グローカル教育を柱としたのは、グローバルな思想を持ったローカル人材の育成にある。 • 特色の一つである英語に関しては、ALTが養父市には7名おり、7名をフルに活かして他校と差を作りつつ、差別しないことを目標としている。 • オーストラリアの首都パースに希望者は市のお金で行けるのだが、他の学校との不公平感あり。 • 演劇に関しては、元々ピッコロ劇団が年に5回ほど指導に来ていたという経緯があり、少人数ではできないたくさんの人の前での表現力を養っている。 • 遠距離の児童の送迎は市が行っている。 • 建屋小学校と直接関係はないが、養父市には3中学校1義務教育学校がある。 • 義務教育学校である関宮学園は1校長3教頭（うち一人は副校長）制。 • 小学校区ごとにある自治協議会の中でも建屋は非常に活発であり、もともと地域と学校が近くコミュニティスクールとしても連携がうまくいっている地域であった。 • 現在もオープンスクールの際には建屋地区秋のフェスティバルとして地域の応援団が活躍。
所感等	• 児童生徒数が減少していく中で、統廃合がいいのか、建屋小学校のように地域の核として、地域の元気の源として残していくのかは、一朝一夕に答えが出るものではない。複合的に、そして子供たちの未来をしっかりと見据え答えを出すべきであろう。 • 上記とは矛盾するかもしれないが、特に小規模特認校の環境、地域とのつながりや地域の熱量が非常に大切だと感じた。 • 養父市は人口は本市の2/3程度だが、国家戦略特区として2014年に全国初の認定を受けている。中山間農業改革特区として農業のみならず多岐にわたり規制改革を活用、地方創生へと走っている自治体である。 • 学校間に差別があってはいけないが、学校間での競争や「差別化」は是と考える。ただし、子どもたちを置き去りにしての競争は非である。

兵庫県丹波篠山市

PROJECT NAME: スポーツ振興官

TIMELINE: 令和5年10月12日午後2時30分～4時

概要	• 甲子園出場経験のある前創志学園高等学校野球部監督の長澤氏を「スポーツ振興官」（特別職非常勤職員）とし、スポーツを通じた青少年の健全育成と競技力向上、スポーツ指導者の育成及び市内各校の魅力ある運動部活動の確立を図ることを目的とする。 • スポーツ振興官の職務としては、 ・活動拠点校（兵庫県立篠山産業高等学校）の硬式野球部の指導 ・日本高等学校野球連盟による「中学・少年野球指導研修会講師派遣要領」に基づく市内中学・少年野球への指導研修会の講師を務める。 ・市内のソフトボールの指導を行う。 ・市内各スポーツ協会等の求めに応じて指導を行う。 ・スポーツ指導者の育成に係る講習会、講演会の講師を務める。 ・市が開催するスポーツイベント等について、連携・協力する。
特徴	• スポーツによるまちおこし➡まちおこし×教育委員会【市長判断】 • ロッテの中森選手とスポンサーシップの締結＝丹波篠山モデル➡抵抗勢力はない（受入れの土壌） • 2高校あるので一つの高校だけの指導では不公平➡小中学校でもやるという意味で教育委員会所管 • 子どもたちが市外の高校へ流出➡野球・ソフトボールで流出を防ぎ地域活性化 ⇩ 高校の定員割れを防ぐ起爆剤が必要！と長澤先生と親交のある市民からの発案 • オファーから受諾まで1年ほど➡長澤先生の父親の出身が丹波篠山だったことも決定打となった。 • 県立高校野球部の監督として「市」が採用するにあたり、兵庫県教育委員会、県立篠山産業高等学校、兵庫県高等学校野球連盟と調整を重ねた。 • 市長が「冠」を取るのがうまい（議長談）。 • 予算は上限いっぱいの720万円➡スポーツ振興官の報酬 • その他公用車・燃料・イベント開催諸費・指導者や協力者への謝礼等、予算建てしている。 • OB会のバックアップ体制も整っている。➡寮、食事、宿直等 • スポーツを通じた地域おこしとして、デカンショマッチ（市内2高校の対戦を市民を巻き込み開催）、岡山創志学園女子ソフトボール部によるソフトボール教室、今田元旦マラソンでの西脇工業との交流、兵庫県初の野球中高連携事業、栄養学講座、ソフトボール交流大会（全国規模）、元日本代表監督の宇津木妙子氏を招いてのソフトボール教室、本人が講師での後援会を就任初年度に開催。（正確には9か月）
所感等	• 丹波篠山市が行っているこの事業は、市長の決断もさることながら、長澤宏行氏の実績とネームバリューに寄るところが大きい。 • 長澤氏をスポーツ振興官に任命する前に、ロッテの中森選手とスポンサーシップを締結しスポーツに対して予算を使用することのハードルを下げていたことも、議会や市民にすんなり受け入れられた背景にあるが、中森選手というプロ野球選手がいることを地域へとしっかり還元するという意味で（ただ応援するだけではなく）非常にうまいプロモーションができていたのではないか。 • 本市で同じことはできないかもしれないが、この施策を通じてスポーツとまちおこしの関係性へのハードルが下がること、スポーツはスポーツだけにあらずということ、枠にとらわれない考え方というものを持ちたいものである。

常任委員会行政視察報告書

委　　員　　相内　玲子

令和５年１０月９日（月）から１０月１３日（金）まで視察実施
４泊５日の行程で山口県　広島県　兵庫県　大阪府と広範での視察となりましたが
天候も良く　順調に視察ができ　視察先の職員の方々にも丁寧な説明を頂きました。
地図で見たら、広いと思っておりましたが、北海道の移動距離、時間の感覚とは違い
車移動でしたが、距離感の違いを感じました。

１０月１０日（火）　下関市「新ショート・トワイライトステイ事業」視察

理由によらない新しい保育事業です。児童を養育している家庭の保護者が、諸般の事情により家庭において児童を養育することが一時的に困難となった場合や、保護者のリフレッシュ等が必要な場合に、児童養護施設その他の養育を適切に養育することにより、これらの児童及びその保護者の福祉の向上を図り、もって児童の健やかな成長と子どもを産み育てやすい街の実現に寄与する目的とありました。

この事業は令和２年１２月１日制定　令和３年１月より実施

事業の背景には子育て世代からの要望と国の保育要件には合わない人が多くいた。

市独自の予算を当て，すき間の制度を作った。まず担当課が子育て中の保護者の声に耳を傾け、あったら助かるだろうなというのを実行にもっていったのは素晴らしい。

事前のアンケート調査を行い、利用する理由の可能性、２４時間預けるとしたらいくらまでだったら利用するのか等を確認。

保護者の中には子育で疲れ休みたいと思っている人、夜間働いている人、突然の用事が出来ても預け先がない人等　様々な事情をかかえている家庭はどこに住んでいても共有できる問題と思います。下関市の預ける理由も特に問わない、事務手続きも市役所を通さないでも、予約を入れて相手先の施設と連絡すればよいと簡素化されていて使い勝手はよいです。ショートステイと夜間預かりは本市にもあればよいですが、下関市には児童養護施設が２か所あり、施設との受け入れ体制を整えられたが、本市にはそういう施設もないため、実行はなかなか難しいと感じました。

また、下関市もやはり保育士の人材を確保するのは大変なようでした。

利用者も伸びているようでしたが、市としてはあまり積極的に周知しても、ニースがいっぱいになるのも、施設側とのスタッフの関係もありこの制度を民間がやってくれたらと担当者が言っておられましたが、民間も予算、人、施設等課題も多いと思いますので、なかなか難しいです。

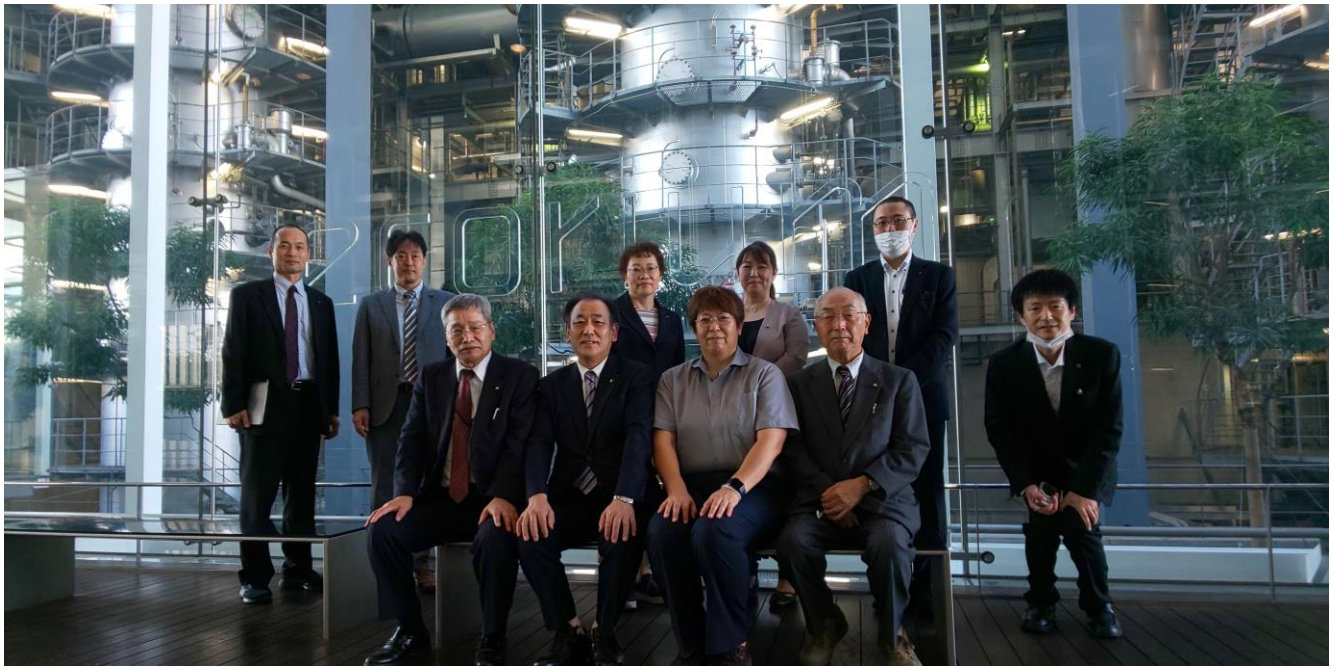
少子化の為、少しでも保護者の負担が軽減し、子供にも、保護者にも安心して生活できる街を、どの自治体も様々な施策をおこなっています。今後本市においてもこの制度も参考にしながら　本市でできうることを探していけたらと思いました。

１０月１０日（火）広島市中工場視察
　　１１日（水）広島市中央エコパーク汚泥再生センター視察
　２か所ともにゴミ焼却施設の視察　市民にどちらの市も分別を本市より細かく分別させ、ゴミを焼却　そこから出る熱を電気にして販売もしている。
広島中央エコパークでは　中工場ではやっていない大型ごみも焼却できていました。
どちらの施設も２４時間稼働でゴミ焼却しています。２か所ともゴミ焼却施設としては最新的であり、きれいで見学も意識し見えるゴミ焼却施設で臭いもなく　市民の憩いの場になるように設計されていました。　前日に中工場を見学したこともあり　翌日の中央エコパークは説明も理解でき、違いを見られたよかったです。
ゴミは宝の山と中央エコパークパークで汚泥再生には最後まで環境にやさしい循環リサイクルを実現しているのにはうらやましいでした。
将来的にゴミ焼却について本市も検討することがあるかもしれませんが、２４時間稼働しエネルギーの販売等をも考えると、ゴミの量もたくさんないと持続的な稼働はできないし、本市だけで行えるものではないなと感じてきました。

１０月１２日（木）　兵庫県養父市小規模特認校について視察
　地域の子供が少なくなり　小学校に市内のどこの場所からでも入学できるようにした。
定員は各学年とも５名定員　特色ある教育で英語教育に力をいれていました。
地域活動に親御さんも積極的に参加すること等伺う。
もともと地域での人間関係も良く、学校支援にも協力的な風土があったと伺う。
遠い子で通学に１時間かかる子もいるがスクールバスでの通学。
自分にあう学校が選択できるのはいいなとかんじたが、中学校ではまたバラバラになるのはさみしい。養父市は英語教育については、ほかの学校にも力を入れていてＡＬＴが本市より多くいた。国際社会でも頑張っていける子を目標に立てていて、会話力が小さいころより培われていく環境はうらやましい。本市でも小規模校にＡＬＴの採用人数が増えて英語授業が楽しく学べて、自然に会話力がつく教育環境ができたらと思う。

１０月１２日（木）丹波篠山スポーツを通じた地域活性化について視察
　市内高校の定員割れの状況を危惧した市民から「高校の定員割れを防ぐ取り組みとして起爆剤が必要！」とあった。そこで地縁的にご縁のあった創志学園元監督の長澤宏行氏を市長自ら先頭に立ち熱心にオフォーしてスポーツ振興官として高校の野球部の監督や、これまで培ってきた人脈を生かして、ソフトボールの宇津木妙子さんを講師によんで、スポーツを通じた市民との交流にも力を入れていました。
高校の野球部への入学も増えてきたとのことでした。
　長澤氏を非常勤特別職として公用車用意し、活動しやすいようにされている。契約も３年半から５年に延長になった。行動する市長が先頭となり　地域活性化の為にスポーツの有名な指導者をよんで、他県への高校進学を少しでも減らし地域に若者の定着をしてもらいたい地域の活性化を図ったことが少しずつ実績になっているようでした。
　スポーツ審議官の人選基準については　丹波篠山市に縁のある方で全校的にも知名度及び指導力のある方となっていましたが　任期後はどんな方が来るのか　継続的にできる事業なのか気になりました。

今回の視察で、やはり少子高齢化の問題、ゴミの集配や、学校と地域の関係等同じ課題がどこもあるが、市長や役所の職員が課題解決に向けて一生懸命取り組んでいる姿勢を見させていただきました。視察先にはお忙しい中準備をしていただき　質問も長くなることもありましたが、丁寧に本音も交えながらお答えいただき大変参考になりました。



常任委員会行政視察報告書

委　　員　　安藤　秀明

１０月９日～１３日の４泊５で、中国地方の５市５カ所の行政視察を行ってきた。
それぞれに、特徴やユニークさがあり学ぶ点、参考になることが多かった。
１０月１０日（火）
〇 下関市「新ショート・トワイライト事業」
・ママさんたちがリフレッシュ含めたショートスティを、簡便な手続きで利用できる事業として大変参考になった。
・残念なのは、国の補助金（３年）が切れることに伴い、せっかくの事業継続が難しいとのこと、担当者の皆さんの無念さが感じられた。

〇 広島市「中工場」視察
・廃棄物処理施設は、概ね「郊外」との認識が変えられた。市の観光諸施設との一体的な配置などすばらしいと思った。
・驚いたのは、財政力の違いからか、ゴミ出しが基本的に「無料」だったこと。

１０月１１日（水）
〇 東広島市「広島中央エコパーク」視察
・「燃やせるゴミ」を焼却処理し、焼却物はすべて再活用しているとのこと。科学技術の進歩を感じさせる施設で会った。

１０月１２日（木）
〇 養父市「小規模校地域活性化事業」
・小規模特認校「建屋小学校」の取り組みは、「学校を残したい」との願いから出発し、地域との結びつきを強みとして進められている。その特色ある教育として、地域の協力を得た体験型教育、ALT を常駐させての英語教育の充実関係、そして演劇指導と上演活動に取り組んでいる。
・メリット、デメリット両方あるが、一朝一夕にできあがったものではなく、学校維持の願い
を関係者の粘り強い努力で実を結ばせ取り組みに思えた。

〇 丹波篠山市「スポーツ振興官」
・地元の高校を維持するために、地方自治体が資金も出して、スーパー指導員を招聘した特殊な取り組みで、正直あまり参考になるものではなかった。

常任委員会行政視察報告書

委　　員　　伊藤　正志

●下関市　新ショートステイ・トワイライトステイ事業
　市民が利用しやすい制度をという視点に関心したが、国からの補助金の打ち切りの後の継続が難しいとの話で残念である。

●広島市　広島市中工場見学
　広島市が誇る先進的なゴミ処理施設であり、環境保護や資源循環に関する教育の場としても重要な役割を果たす施設であった。
　環境保護の観点が強く反映されており、最新の技術を駆使して効率的かつ環境に優しいゴミ処理を実現し、同時に環境に配慮した美しいデザインが施されており、建築物としても大変関心を持った。
　建物は地元住民や観光客にも開放され、見学ツアーも定期的に行われおり、従来のゴミ処理施設のイメージとは違う感覚を持った。

●東広島市　広島中央エコパーク見学
　前日の中工場同様、先進的なゴミ処理施設であったが、ここは３自治体の協議で進められた事業という点に感心した。
　また、持続可能な社会の実現を目指し、廃棄物の減量や資源の有効利用について、市民や学生向けに、リサイクルの重要性や廃棄物処理の現状について学ぶ機会を提供している点も素晴らしいと感じた。

●養父市　小規模校地域活性化事業
　過疎化や少子化の影響を受けている地域における小規模校を中心とした地域活性化の取り組みとして、地域コミュニティの維持と活性化や、小規模校の教育環境の向上や地域との連携強化が期待できると感じた。
　今後、小規模校が地域の教育拠点として再評価され、地域コミュニティの結束を強める手段として参考になった。

●丹波篠山市　スポーツ振興官
　率直に大変思い切った施策だというのが一番の感想である。
　人物ありき種目ありきの事業であっても市長の強いリーダーシップや決断力で施策を進めることも時には必要で、それを支持できるだけの行政職員の力強さも感じた。
　同じ事業は無理だとしても、この事業のような夢のある取組で地域の活性化を目指したいと感じた。

常任委員会行政視察報告書

委　　員　　栃木　潤子

新ショート・トワイライトスティ事業
　今後の稚内においても必要なことだと感じた。スティ先の検討課題などはあるものの子育て世代に対しどのような支援策が必要か考えていかなければならない。

中工場現場視察

広島中央エコパーク現地視察
　どちらの工場も今後、稚内のごみ問題を考えるに大変勉強になりました。
　規模等は違えども、どのような考えをもっていけばいいのか、近郊との連携も含めて検討しなければならない。

小規模校　地域活性化事業
　学校から地域とつながる事業として画期的だと感じた。
　校区や交通網、その他の学校との連携も含めて、稚内でどのような取り組みができるのか考えていきたい。

スポーツ振興官
　なかなか面白い取り組みだが稚内でどのように活用できるのかと感じた

常任委員会行政視察報告書

委　　員　　横澤　輝樹

［下関市　新ショート・トワイライトステイ事業］
・ショートステイ・・・原則7日以内
・H30 アンケート結果で祖父母等の親族に日常的に子供を預けられる人は約 29%だったので必要性を感じた。
・国の制度では使う側の理由が必要で書類も大変だったし、市に足を運んで手続きが必要だったものを直接事業先で手続きできるようにした。
・風邪などの傷病者は病児保育所対応
・利用料金は今後財源の問題で旧の料金に移行する予定

［広島市　中工場］
・ゴミの量が200t/日以下では発電量が少なく、売電はできず施設内でしか使えない。
・うち壁を薄い材を使うなど観せる施設のコンセプトに沿いながらもコスト削減にも努めていた。
・施設を建てるにあたりコンセプトをしっかりと作って、それに沿って知恵を絞った感じを受けた。

［東広島エコパーク］
・3市町で建設。施設建設費と運搬経費とを比較して現施設建設に全市町が合意のもと進められた。
・ゴミを出さない施設は建設費が莫大にかかると思うが、教育や防災などの総合的な問題解決のための施設として建てられているので住民の安全安心、特徴あるまちづくりのためには効果が高いと見ているようだった。
・計画から完成まで12年かかった。環境アセス、設計、施工の要するのは6～7年かかることからコンセプトをしっかりと作り上げる時間を要したんだろうと推察。やはりそこが肝になると確信した。
・ゴミの搬入量は計画通りなので産業廃棄物を入れる必要はないが、今後人口減などによりゴミの量が減ったときには検討する。
・ゴミの搬入量は250～280t/日で、発電量の2/3は売電。ガス燃焼システムを採用していたがストーカ式だと200tが売電基準と広島市では言われたので、ガスの方が効率は良さそう。ただし、こちらの方が施設は新しいので正確な比較はできない。

［養父市　小規模校地域活性化事業］
・ピッコロ劇団が年5回、講師として来てくれて劇の発表をしたり、地域との合同運動会など、地域の人たちを含めて元気に楽しめるような取り組みを数多く行っていた。
・全児童45名中　特認校指定できてる人は10名程度。
・ALTは7名。特認校は常駐だが、他校は回数を増やして対応している。
・校長1人、教頭3人。
・幼保・小連携・・・5・5連携(5歳、5年生が共同で活動など)
・子供に関する課は全て同じフロアにして連携しやすくしている。
　メリット・・・複式学級を解消できた、児童間の交流が活性化した。
　デメリット・・・中学校に進学時の学校区問題、他小学校との不公平感。
・場所の選定はこの地域を活性化するためが目標なので現在地を選定した。

・学力、体力については今データを集計中で、他の小学校のからの転校による人数などの弊害は今のところ10名程度なので問題はないが、今後は推移を見ていくとのこと。
・カフェなどを小学校へ作っているのは、学校と地域が協力しあってるからできている。

［丹波篠山市　スポーツ振興官］
・オファーしてから約1年がかり。
・市と千葉ロッテマリーンズとスポンサー契約（篠山市出身選手の応援のため）は全国初。
・振興官の人脈で専門の人を呼んできている。
・給与は非常勤特別職の上限の720万/年。他旅費等を含めると1,000万強。
・教育委員会が主導であれば教育理念との兼ね合いが重要だと思うが、高校野球で町おこし（地域 活性化）が目標だから、知名度、実績等で長澤さんありきで進めた。
・かなり無理のある施策だと思うが市長の英断と適切な人事、担当者の経歴、熱意がこれを成功させていると感じた。

常任委員会行政視察報告書

委　　員　　吉田　孝史

「新・ショートスティ・トワイライトスティ事業」　下関市

非常に、思い切った福祉施策と感じた。事業目的として、本事業は、児童を養育している保護者が、諸般の事情により家庭において児童を養育することが一時的に困難となった場合や、保護者自身の心身のリフレッシュ等をも対象となることに注目した。かかる事業は、一般的に社会的弱者のための設置目的と考えるのが普通であるが、そうではない。希望すれば、理由を問わず「下関市民なら利用可能」と言う。自身の行政経験から言うと「市民からは使い勝手は良い制度」ではあるが、富裕層も含め「誰でも」との施策は、数ある公共政策の中では、優先度が下がらざるを得ない。むしろ「民間に馴染む」事業と捉えられがち。実際、下関市のホームページを閲覧すると、Sスティ事業は、以前には、同市「こども未来部子育て課」が打ち出す「重要施策」に掲載されており、本委員会においても「本事業」を調査に選定したもの。しかし、現在では、重点政策の「プライオリティ」が下がっていると感じ、この経緯を説明者にお聞きすると「2100 万円の財源（交付金の打ち切り）と施策の成果・優先順位からも事業継続は厳しい」との事。長州藩の気概で、是非、事業継続を願いたい。「ボート基金」が鍵かと。

「広島市中工場」見学　　広島市

アイテム・コンセプトは「敢えて見せる」をコンセプトに、広島市「平和記念公園」の真南に、本体事業費４０６億円、排ガス・排水・騒音・振動・臭気に最新の技術力を結集させた。いわゆる焼却型の「ゴミ処分施設」の見学。見学後、中工場の計らいにより、会議室での施設概要→説明付き見学→質疑応答となった。見学では、中工場の売りである「エコリアム」。ここでは、見学会や映画撮影（第 94 回アカデミー賞映画賞「ドライブマイカー」）、コンサート等が行われていた。視察時にも、広島市内の小学生らと見学が一緒。敢えて作業工程である「焼却機械」がむき出しで、ガラス越しに大型ボイラー・パイプ・搬入作業等の仕掛けが、見られる。また、緑に包まれた「板張り」の長い廊下は「敢えて見せる」コンセプトの中心。「処分場の負のイメージ」は全く無い。
何よりも、広島の中心地に「ニンビー」（必要だが側は嫌）施設を据えた広島市民の度量、民意の高さに感服した。
また、中工場では、「プラスチックも焼却する」には驚かされた。中工場は、24 時間、市民利用可能も、特出される。

「広島中央エコパーク」見学　　東広島市

前日に続き、広島市に隣の市、東広島市にある「広島中央エコパーク」（高効率ごみ発電施設）を見学した。ここも職員が対応し、概要説明→施設見学→質疑応答となった。
竹原市・東広島市・大埼上島町は、一般廃棄物及びし尿の共同処理をするため、一部事務組

合「広島中央環境衛生組合」を設立。３自治体の協議のなか、建設位置は、丁度、真ん中「人口重心」（ウェイト経費を考慮した考え方）を用いて建設。「エコパーク」の基本理念としては、資源循環・エネルギー利用に優れた施設と環境学習の拠点となる施設。総事業費は 256 億円。高効率ごみ発電は 200 億円、汚泥処理センターは 41 億円、用地造成費 15 億円であり、「売り」は、広島市中工場と同様、ガラス張りで環境学習に対応している。この東広島市「エコパーク」における「高効率」「山本還元（処理物の溶融処理から非鉄金属を回収し再利用）」等は、稚内市における次世代処分施設としては、日進月歩での技術進歩・革新は期して待つべきものはあろうが、現段階では、目指す施設であることは間違いないであろう。

「小規模校　地域活性化事業」　　兵庫県　養父市

調査前日、公共放送で兵庫県養父市における「国家戦略特区」による取組みとして「ライドシュア」実施の放映があった。教育分野では、同市は、BG 財団と提携し、悩みを抱える子供たちを支援する「子ども第三の居場所」設置で、耳目・話題を集めた。
調査は、同市における「小規模特認校における地域活性化事業」についてである。平成 30 年度から「小規模校活性化事業」として、市立建屋小学校を「小規模特認校」として認定。校区を市内全域とし、特徴として「演劇活動（ピッコロ劇団）を通して、「ふるさとを学び、「表現力の向上」を習得。外国語指導助手（ALT）の複数人配置による英語力（会話中心）を高める学校となっている。就学条件が、またユニーク。建屋小学校の教育活動に賛同・協力する事。建屋小学校での卒業を見据えての就学。加えて入学希望の際、「保護者と児童との面談」とある。「小規模特認校」としての「売り」の一つは「グローカル人材の育成」であり、併せて、豪州西岸、パースへの留学もある魅力的な学校となっている。また、特認校の支えとして地域協議会の支援がある。稚内市の「5 小・５中」のあり方、即ち港小に「言葉の教室」実績を踏まえ「小規模特認校」も視野に入れる時ではある。

「スポーツ振興官の配置」　　兵庫県　丹波篠山市

「スポーツ振興官」設置は、酒井市長（弁護士登録）の英断と決断から実現。背景には、同市が抱える、人口流出・地元の 2 高等学校の定員割れを防ぐ狙いがある。振興官には、「人ありき」で話を進め、高校野球で実績のあった長澤宏行（69 歳）を非常勤特別職で採用。長沢氏の経験と実績、氏の有する人脈や影響力を以て、同市の「過疎と高齢化」脱却を図ろうとする「大胆な施策」に、驚いた。ましてや地元とは言え「高校支援策」が主である。教育委員会制度、関連する小中義務教育の「学校教育法・学校の組織と運営に関する法律や給特法」や文科省の進める「中学校の部活動の地域移行」とは、正反対。ある種、法律・組織の「壁」乗り越えた、新しい「町おこし」の方策である。行政組織においても、教育委員会と首長部局との所管横断型で、「スポーツ振興官事業」を推進させた手法には、自身も認識を新たにした。丹波篠山市役所職員には、「突破力」を感じた。
本市においても、工藤市政のカーリング場建設においては。丹波篠山市の思想・施策であったなら、教育委員会と企画総務にとに存在する「組織や予算の壁なし」で進められたハズ、今後は、稚内市として参考にすべき。無論、強力な市長のリーダーシップがあっての事。

総評

4 泊 5 日で、下関市（山口県）・広島市・東広島市・養父市（兵庫県）・丹波篠山市での調査は、広域で移動距離も長く最高齢者にはキツイ旅程ではあったが、調査及び見学と質疑応答は、内容も濃く、5 項目に亘る調査は、全部が予定時間をオーバー。受け入れ側の対応も良く、私も含め、各委員も「達成感」はあったハズである。調査全般を上手くさばいた鈴木委員長、影になり先頭になり、タイトな日程や時間設定に、汗をかいていただいた随行 2 名にも感謝したい。本調査が、今後における議会側から行政側への提案やチェックに繋がるよう心掛けたい。委員会としての団結感・連帯感は、私の経験した委員会視察の中でも充実感・達成感は上位であったと言える。